



— 新連載 —

「3.11 とわたし」

2011年3月11日の東日本大震災。あなたはどこにいて、何を目にし、感じましたか？

新連載「3.11 とわたし」では、会員一人ひとりにとっての“3.11（東日本大震災）”を紹介します。〈不定期掲載〉

初回は、3.11後の福島県に赴き、被災地をその目で見てきたHuRP会員の蓼沼さんに、寄稿いただきました。

* HuRPでは、「3.11」に関連することを、「いのちあってこその人権」という観点から捉え、これまで、募金活動、被災地ボランティアなどを行い、活動テーマの一つとして掲げています。

原発の爆発音を背に、福島県南相馬市川房地区の知人（果樹園経営）が12名で車2台に分乗し、殆ど着の身着のまま埼玉県三郷市に避難して来ました。見舞いに伺ったところ、「一带は警戒区域に指定された。田園地帯の穏やかな日常が一方的に断ち切られた。集落や町そのものがなくなってしまった。夢も希望も踏みにじられた。無念だ」と苦悩の表情でした。



津波の被害をうけた住宅（南相馬市）

2011年秋、彼に現地の市議会議員を紹介してもらい、南相馬市に1泊で調査と慰問目的で行って来ました。津波で転覆した多数の漁船がそのままになっていて、土台や外側だけの建物も相当数残っていました。市議の奥様の案内で2箇所の仮設住宅に伺いました。50代の男性は、「原発事故のため勤務先の会社の営業再開のメドが立たない。妻の実家である大分県に妻子は避難している。長男が3月に進学する高校は大分になりそうだ。妻の老齢の両親は娘が来て喜んでいいる。もしかしたらこ

のまま1人暮らしになるかもしれない」等々、訴えておられました。家族の分断という見えない悲劇の一例です。昼食に寄った食堂のおかみさんは、私の横に座って「東電は除染なんかよりも放射能ごと持って行ってもらいたい」など一気に1時間もぶちまけてくれました。参考になることがちゃんと言えなくてごめんね、と言っておられましたが、この怒りの声は何より勉強になりました。宿泊したホテルは格安料金で、作業服姿の人たちばかりでした。ひどく粗末な朝食を共にしつつ話しかけましたが誰も応じてくれません。箆口令が敷かれていたのでしょう。

帰路、線量が高いため無人となった飯館村の景色があまりに素晴らしいので車から降りて歩き回りました。「郷土の誇り 飯館牛」の看板があちこちにあります。ある家の入口には、咲き乱れるコスモスに隠れるようにして「美しい村づくり」と書かれた小さな板が立っていました。車で村を横断中、「ああ、こんなに郷土を愛しているんだ」と涙が溢れました。

別の日に新幹線で福島市を訪れ、復興支援活動・脱原発運動をしている方々の話を伺いました。このとき一番印象に残ったのは、同市でも線量が最高だった渡利地区を通ったときのタクシーの女性運転手さんの言葉です。「このあたりでは避難しようにもできない家庭の



『美しい村づくり』の看板（飯館村）

子供たちだけが残っています」。帰宅する小学生たちは、どこでもそうであるように、無邪気に笑い合いながら三々五々歩いて来ます。すれ違うたびに、私はまともに顔を見ることができず、視線をそらしました。

知人の南相馬の自宅一帯は今も「居住制限区域」で、彼は「俺が元気でいられる5年～10年の間には戻れないだろう」ということで、札幌に終の棲家を求めました。もう警戒区域でなくなったので私たちも立ち入ることができず。彼がこちらにいる間に、川房地区に一緒に行って来たいと思います。彼は、置いてきた家畜を家族のように想い、猿や猪、田んぼの畔の石ころ1つにも愛着があると言っています。被害は自然界にも及んでいるのですね。今は、人間中心の文化を見直す好機でもあるのではないのでしょうか。

福島大学前副学長の清水修二さんは、原発の背景には差別の構造がある、それは世界的なものであると強調してい

ます。日本は原発から出た放射性廃棄物の最終処分場を、モンゴルの遊牧民が住む草原に建設する準備をしています。「原子力村」に限らない諸々の「差別の構造」に対しては、国内外において強い意識を持って闘わないと、差別強化を止めることすらできません。

首相官邸や国会議事堂前の反原発デモ・集会に4回ほど参加しました。起ち上った市民の自発的な運動は抑圧される局面に入りつつあるようにも感じられます。「自覚なき選択」をし「怠惰な現実主義」(清水さんの言葉)に陥っていた者の責任として、抑圧を跳ね返

し、多様なレベルでの共闘を広げて行く必要を痛感しています。

今回の事故の原因を見ると、予見可能性はあったのに私的利益を優先させた人災だと思います。東電幹部や原子力安全委員会委員などは、「公共性」や「許された危険の法理」によっては免責されないと考えます。「差別の構造」を利用して国民を支配してきたエリートたち個々人の無責任な体質を糾弾し、まともな社会にするために、業務上過失致傷罪等で起訴することを求めて、1万4000名余の方々と共に福島地検に告訴しました。(蓼沼紘明)

2012年総選挙結果を受けて——希望がもてる社会を

2012年12月26日 HuRP事務局

2012年12月16日、総選挙の投開票が行われました。

今回の総選挙は、長期間にわたった自民党政権からの政権交代を果たした民主党の3年間の政治を問い、今後の政治の方向性を選択する機会でした。選挙の前に民主党が「分裂」し、そして選挙直前に「第三極」と称するいくつかの政党ができ、多くの民主党議員などがそれらに鞍替えする中で選挙が行われました。結果として、戦後最低の投票率の中、小選挙区で多くの議席を得た自民党が過半数を大幅に超える294議席を獲得して第一党になりました

た。再び「政権交代」が起こったわけです。

また今回の総選挙は、一票の格差が違憲状態のままにおこなわれた点でも、解散は野田首相が消費税増税の実現を自民党に迫った結果という点でも異常な中で実施されたといえます。

この選挙で自民党は「憲法改正」による国防軍の創設をはじめとするタカ派の主張を政策に掲げ、「日本維新の会」も「自主憲法の制定」を唱え、あたかも「憲法改正」が争点のごとく声高に主張されました。しかし多くの国民は、消費税増税をやめさせ、人間らしい生

活と充実した社会保障の実現、原発に対する廃止も含めた責任ある判断、米軍基地の撤退を含む平和的な社会をどのように実現するか、を求めていたのではないのでしょうか。

その民意に反し、選挙戦では真剣に解決しなければならないこれらの課題を無視する政党が、尖閣諸島問題などを奇貨として、軍事力を持つ「ふつうの国」にと唱えて、「憲法改正」を勇ましく掲げ、国民をあおりました。将来への不安を持つ国民の心理に対して危機をあおる常套手段によって、残念ながら、民主党政権への失望と相まって、彼らは一定の効果を上げたかに見えます。しかしそれは、本当の国民が持つ政治への期待の内容とは大きく乖離するものになっているのではないのでしょうか。

それはなぜでしょうか。背景にはまず選挙制度そのものの問題があります。衆議院選挙は小選挙区制中心の制度となっており、多様な国民の意思は議席数に比例的に反映されません。小選挙区は一人しか当選することができないため、相対的に優位となった大政党候補などが圧倒的に有利です。そのため多くの死票が出ます。つまり、本当の意味で民意が反映されていないということです。また、マスメディアも真の争点を報道せず、有利と思われる政党や候補者に肩入れする偏重報道に終始

しました。したがって、国会で自民党などが多数を握ったといっても、国民の多数の意見がかならずしも反映しているとはいえないのです。それは比例区得票率で自民党が27%しか支持を受けていないことをみれば、明らかです。

国民の多数意見を反映していない事実があるにもかかわらず、多数の議席を得た自民党中心の政権は「憲法改正」をねらい、タカ派的な政策をすすめることになるでしょう。私たちはその動きに十分警戒しなければなりません。この結果に決して無力感を抱く必要はないと思います。国民の人権や平和への願いに逆行する政策を支持する国民はむしろ少数です。世界をみれば、大きな流れは平和と人権尊重が実現する社会へと向かっています。

ですから主権者である私たちが主権者として、人権や平和に逆行する動きに対して、日本国憲法が持つ「生命力」を学び広げていくことで、「憲法改正」を阻止して憲法が生かされる社会を作るという意思を持ちつづけることが大切です。

厳しい情勢ですが、来年も人権・平和国際情報センター（HuRP）会員のみなさんと一緒に希望を持って、いろいろなとりくみを行っていきたいと思います。

よいお年をお迎え下さい。

2012年のHuRP、そして2013の活動に向けて…

◇『『金大中図書館』に行ってみよう』(HuRP 出版)

2011年12月、『金大中図書館』に行ってみよう』刊行に関する打ち合わせのため、HuRP 会員有志が韓国をお訪れ、金大中図書館の見学、館長・金聖在先生との会談、韓勝憲先生との会談などを経て、6月 HuRP 出版から本書が刊行。同月、その刊行記念として「金大中氏の功績と『金大中図書館』講演会を開催しました。

このことは、金大中氏個人の韓国における民主化運動の功績を知ることにとどまらず、第二次世界大戦後に韓国の市民が軍事政権に抗して平和と民主主義を勝ち取り、それを発展させていることを自身の現状に重ねて実感するためにも、私たちにとって好機となりました。

◇ 3.11～東日本大震災

2012年3月。東日本大震災から1年を迎えました。HuRPでは、震災直後から被災地で被災された一人ひとりのいのちとその生活を思い、実質的な支援ができればと現地にボランティアへ訪れました。その後、今年の通信レポートなどで、原発事故の実態を注視し、脱原発運動に会員が参加するなど、現場の声を風化させないため、そしてすべては一人ひとりの「活きる＝生きる」権利のため、できるかぎりの活動をしようと努めてきました。それは、今までの公害問題への改めての問題意識、肥田舜太郎先生との出会いをきっかけに生まれた「被ばく」―広島の実態への意識や、新たな企画に結びつきました。

HuRPでは、引き続き、新連載「3.11とわたし」を基軸に、東日本大震災を機に見直されるべき「いのち＝人権」に焦点をあて、守られるべき人びとの生活や将来をテーマにしていきます。

◇公害病「富山イタイイタイ病」「水俣病」

1960年代に明らかになった公害病もまさに、3.11後の福島第一原発事故と同じような構図にあると気づかされました。2009年11月末に「富山イタイイタイ病」の調査のために、富山県を訪問したHuRPでは、引き続き「水俣病訴訟」など、公害病のために苦しみ、「当たり前の権利のためのために闘争」する人びととともに、その事実を知り学ぶことを続けていきたいと思えます。

◇「被爆・内部被曝と人権」

戦後67年。この夏、『核』と『人権』を考える」というテーマで、通信にもお話を掲載した肥田舜太郎先生との出会いが、HuRPにはありました。先生は戦争体験と、ご自身が被爆されたという過酷な実体験を、これまで多くの国内外の人びとに語り、原爆と原発、放射能の恐ろしさを伝えてこられました。戦時下の政府の下で失われた尊い命。それを医師として目に焼けつけてこられた先生が強調するのは、「自分のいのちに責任をもつこと」。そこから「人権」を考えることが始まるのだと教えられました。

～2013の活動に向けて～

ここには書き切れない貴重な体験が、今年もHuRPの活動にありました。そして、日・米・韓それぞれのリーダーを決める選挙など…刻々と世界、時代は動いています。日本では、死刑執行が今年立て続けに行われたことも、忘れてはいけない出来事だと思います。

来年は、新連載「3.11とわたし」の定期掲載とともに、「人権擁護(用語)の基礎知識」など、新たな連載やイベントも計画中です。また、購読いただいている会員のみなさんの「声」もこのHuRP通信でお届けできたらと考えていますので、引き続き毎月のHuRP通信にご期待ください！

HuRP から会員のみなさまへ ～プレゼントのおしらせ～

あっという間の2012年。みなさんにとっては、どんな1年でしたか？

今年は池袋に事務所を移し、HuRP出版とともに実り多き1年となりました。また、HuRP会員のみなさまから、多大な支援をいただきました。ありがとうございます。

その感謝の気持ちをこめて、会員のみなさまへ、プレゼントをご用意しました。

以下2つの賞から1つを選び、お名前・住所・ご連絡先・HuRP通信の感想やHuRPの活動へのご意見をご明記の上、下記のHuRP事務所まで、ご応募ください。（当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。） 応募メ切：2013年1月20日。

① 『HuRP 賞』 1名様



- ・「芦別事件を知る」(HuRP出版)
- ・9条ブックマーク
- ・HuRPポストカードセット

② 『金大中賞』 1名様



- ・『『金大中図書館』に行ってみよう』
(HuRP出版)
- ・金大中図書館グッズ
マグカップ、ポストカード、鉛筆、
ブックマーク

【編集後記】2013年も会員の方々とともに、一人ひとりの人権が守られる社会と、平和を一番の指針として活動していきたいと思えます。今月のカットは平和の象徴ハトと、HuRPの9条ブックマーク。2013年が憲法9条の守られる、平和な年でありますように…。 (望)



来年もよろしく
お願い申し上げます！
みなさま、良いお年を！

特定非営利活動法人 人権・平和国際情報センター
Human Rights and Peace Information Center Japan
〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402号
TEL & FAX 03-6914-0085

E-mail : hurp@hurp.info URL : <http://www.hurp.info/>